

経営理念		<p>【保育目標】 げんき のびのび のいちっこ                  【経営目標】 一人一人の子どもを大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす                  《子ども像》 ・自分のことは自分でしようとする子ども ・思いやりの心をもつ子ども ・自分で考える子ども ・人の話を良く聞き、自分の考えや思ったことを話せる子ども</p>						
中期経営目標		短期 経営 目 標 (評価項目)		自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改 善 策 等
				達 成 状 況	評 価	考 察	評 価	
適正な保育所経営	職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	①	職務分担を明確にし、職員が報告・連絡・相談に努め、協力して職務に当たる	各行事の実施案については、検討会を行い、その都度評価反省ができた。終礼で各クラスの子どもの様子をすることはできているが、気になる子どもの姿や家庭のことなどの共有ができていないこともあった。また、報連相の大事さは理解しているが、伝達が抜かることがあった。	B	職員数が多いが、それぞれが連携の大切さを分かり、協力し合いながら職務遂行に取り組んでいる。保護者アンケートからも保育所に寄せる信頼度が高さがうかがわれ、大きな園ではあるが行き届いた保育が行われていることが分かる。連携方法等これからのさらなる工夫に期待したい。	A	職員会の中に園児の様子を報告する時間を定期的に組み込んだり伝達ノートを活用したりして、確実な職員間の情報共有が図れる仕組みを作っていく。
		②	保育所の安全計画や防災マニュアル等を見直し、安全対策を行う	毎月の避難訓練では、様々な時間帯・場所における地震や火災の発生を想定して訓練を行った。毎回、実施案に基づき動きの確認をすることで職員の共通理解を図ることができた。その都度反省はしているものの皆で話し合い、深めるまでには至ってなかった。	B	毎月しっかりと避難訓練を行っている。いろいろ取り組んでも100%はないので、常に保育者が、様々な場合を想定して今考えられることを考えておくことが大切である。それを踏まえ、今後も職員間で考え続けていかれることを期待する。	B	訓練後の評価反省をもとにした話し合いを確実に持つことで、各学年の職員の気づきが園全体での共通認識となり、一人一人のさらなる防災意識の高まりにつなげていきたい。
充実した保育内容	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育を展開し、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。	①	保育所経営計画について共通認識のもと、保育目標達成に向けPDCAを活かした保育を実践する	子どもの発達や姿から保育を振り返り、ねらいに沿った評価反省を行い、週日案の改善が進んだ。しかし、計画が後手になることもあり、保育の創造までには至ってない。	B	保育者が子どもの心に寄り添った保育がされている。PDCAサイクルを活かした取り組み姿勢と実践は評価すべきものである。週日案を更に活用していくことが大切である。	A	週日案をもとに年齢に応じて今育てたい事大事にしたい事をクラスに携わる職員間で共通認識して保育していく。毎週木曜日終礼後に各学年の代表で次週の保育の計画について確認し合い園全体で共通理解を図るようにしていく。また、各クラスの週案や記録が見合えるような工夫をしていく。
		②	子ども一人一人が自分らしさを発揮して夢中になって遊ぶための環境を作っていく	子どもの興味関心を丁寧に読み取り、環境を整えてきた。社会事象やその時期ならではの季節を考えた環境も整えられており、子どもが自ら遊ぶ姿が多く見られた。環境の再構成などまだ不十分な点もあるが職員の意識は着実に高まってきている。	B	いつでも先生が子どもと一緒に遊んでいる姿が見られ、保育者自身が子どもにとっての良き環境となっている。また、物的環境についても良く考えられ、工夫がされている。	A	子どもがさらに意欲的に遊ぶための環境を整えるためには、子どもが何に興味や関心を持っているか子どもの内面を理解していくことが必要となる。それぞれの子どもが自分らしさを発揮できるように、職員間で多角的に子どもを見合うことに努めていきたい。
		③	豊かな心と丈夫な体の育成を図る	保育者自身がモデルとなり遊びに参加し、ルールを共有したり、遊びの楽しさに共感したりできていた。90%の子どもが、体を使った遊びに取り組む姿につながっていた。	A	体づくりに力を入れているのは野市小学校と、方向性が同じである。小さい時から体づくりは大事なことであるのでぜひ引き続き行っていただきたい。	A	狭い園庭なので、使う場や時間の調整を学年間で計画的に進めていく。また、園庭の遊びは固定遊具を含め、子どもが自ら関わりたくなる遊びの環境をさらに工夫していきたい。
信頼される保育所	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	①	保育の意図や子ども理解を保護者と共有・共感する	保護者にとって保育所での子どもの様子が分かりやすいように、ドキュメントを作成したり、便りに写真を取り入れたり、子どもの発達や保育の意図を伝えるように努めた。コロナ対策で例年のような参観やクラス懇談ができず、保護者同士のつながりが持てるような支援は難しかった。	B	保育所と保護者が同じレベルで共有・共感することには難しさがある。今年度は、コロナ対策で様々な制限があり、結果としては難しさもあった。次期への期待をしたい。	B	便りの中に、子どもの成長や発達、保育者が意図している事を取り入れることで、子どもの成長を確認したり、子育てのヒントとなったりする工夫をしていきたい。また、行事の時などタイムリーにドキュメントをクラスごとに出すことができるように工夫していきたい。
		②	基本的な生活習慣の定着を目指し、保護者と共に連携しながら取り組む	基本的な生活習慣の確立を目指し、のいちっこカレンダー、すくすくリズムカレンダー、生活リズムチェックカードを実施した。提出率は97%で、保護者の関心はあると思われる。この取り組みの時には、保護者への働きかけができていたが、年間を通じた継続した働きかけは十分とはいえない。望ましい生活リズムを実践しようとしている家庭は多くあるが、リズムがついていない家庭もあり差がある。	C	「早寝早起き朝ご飯運動」を推進する取り組みでは難しいこともあるかもしれないが、生活習慣として考えた時には、今年は手洗いやうがい、消毒などの衛生に関しては定着ができており、皆が底上げできたといえる。	B	今、定着している習慣の持続に努め、生活リズムの大切さについては、クラス便りでも知らせていく。また、年齢に応じた話し方や紙芝居、ペープサートなどを用いて子ども自身に意識させていく取り組みをしていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべし D：大いに努力が必要

令和 2 年度 香南市保育所評価報告書

香南市立野市東保育所

経営理念		【保育目標】 おひさまと なかよし のいちっ子 【経営目標】 『子ども一人一人を大切に、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす <子ども像> ○友達とかかわり、思いやれる子ども ○自ら遊びを作りだす子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども <保育所像> ○一人一人の子どもを大切に保育所 ○保護者の子育てを支援する保育所 ○保幼小の連携を大切にする保育所 <保育士像> ○子どもとの信頼関係を大切にする保育士 ○保護者とのよりよい信頼関係を築く保育士 ○専門性の向上に努める保育士 ○チームワークを大切にする保育士 ○意欲を育み環境を考える保育士					
		中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価 達成状況	評価	保育所関係者評価 考察	評価
充実した保育内容	保育指針に沿って、乳幼児の発達に即した保育を展開し、望ましい未来をつくりだす力の基礎を培う	① 一人一人の子どもが楽しさを感じ、繰り返し遊びたい環境構成や援助を行う	子どもが感じている楽しさと、保育者の思いにズレがないか保育を振り返り環境の再構成を行った。また、保育者も大切な環境であることを意識して保育をした。その結果、60%以上の子どもが主体的に環境に関わり繰り返し遊ぶようになった。	B	・視察した姿からも子どもたちが楽しんでいる様子が感じられた。 ・人的・物的環境整備は良くできていると感ずる。	B	子どもの育ちに合った環境構成や援助に繋げるために、クラスを超えて環境について具体的に話し合えるような場を作り、より多くの職員で学びを深めながら、日々の保育に活かしていく。
		② 自分の思いを相手に伝えたり、相手の気持ちに気づいたりする態度を育むために、年齢に応じた援助を行う	相手と思いが通じ合う喜びの積み重ねが伝えることや相手の思いに気づく態度に繋がることが共通理解し、年齢や育ちに合った大事にすべきことは何かを一人一人の職員が意識したこと、実践に活かすことに繋がった。その結果半数以上が安心して自分の思いを伝えることができた。	B	・年齢や月齢差などがある中で、一人一人の園児の思いに寄り添う対応を職員間で共通理解できている。	B	計画的に文献研修を行い、子ども理解を深め年齢や育ちに合う”通じ合う喜び”が感じられるような援助や保育者の役割について学びを深め、実践へとつなげる。
		③ 一人一人の特性や発達に応じた個別支援の学びを深め、援助につなげる	子どもの行動を理解するために、職員同士や専門機関とも相談しながら、援助や環境の工夫をすることができた。しかし、日によってや子どもの状態によって、援助や環境構成が有効でない時もあり難しさも感じた。	B	・特別支援が必要な園児(家庭)への対応は、園と共に関係機関との連携をこれからも継続してほしい。	B	継続して子どもの行動理解に努め、他の職員や専門機関とも連携して、一人一人の特性や発達に応じた援助について考える。個別カリキュラムや記録を活用し、具体的な援助について話し合いながら個別支援の充実を図る。
適正な保育運営	園務分担に適切に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する保育所を構築する	① 各クラスの子どもの育ちを共有しながら協力して保育に取り組む	早朝から延長まで、クラスの子どもの関わる複数の職員の保育が繋がるように全員が”引継ぎ”を意識して取り組めた。また、他学年の職員と保育を伝え合い、ねらいを確認することでお互いの保育に目を向け、声をかけ助け合うことのできる組織となっている。	B	・職員間の連携、保護者対応等への共通理解等、チームで組織的に取り組んでいる。	A	子どもの姿や保育についての引継ぎが確実となるようにノートや回覧ボード等も活用し、丁寧な子どもへの関わりや、保護者対応ができるように引き続き取り組んでいく。
		③ 防災・安全教育・保健管理について実践の中で見直しを行い、改善を進める	避難訓練では、事前の話し合いの中でどうゆう所を大切にしたい訓練にするかを、毎月確認しながら実施した。振り返りを行い、反省から次へ繋げようとする意識も高まった。また子どもたちの振り返りも大切に取り組み、年齢差はあるが子ども自身の防災意識も高まっている。	B	・防災・安全教育・保健管理はいつまでも続くテーマだと思うので、継続した見直しや保護者への発信に努めて欲しい。	B	防災や安全対策、保健管理について保護者に発信し、家庭の意識も高まっていけるよう取り組む。幼小や地域とも今出来る取り組みを考えながら、充実した防災対策を目指す。
信頼される保育所	保護者や地域に親しまれる保育所づくりに努める	① 保護者や地域の方が分かりやすいように保育の情報を発信し、子どもの育ちの姿や保育内容の説明を行う	今年度はコロナ禍の中、保護者に安心してもらうことの重要性を職員間で共通理解し、クラス便りやドキュメント、ミニ便り等、様々な手法を使いながら保育について発信した。職員一人一人が保育の意図を伝えることを意識したこと、保護者の安心に繋がった。	B	・アンケートの結果からも肯定の保護者の割合が高く、保育所の取り組みや子どもたちの成長する姿が保護者に伝わっていることが分かる。	B	前年度の取り組みを活かしながら、様々な手法を効果的に活用して、子どもの姿や保育を発信していく。子どもの表面的な姿を伝えるだけではなく、子どもの思いや保育者が大事にしていることを具体的に発信していく。
		② 幼小中や地域の関係機関と連携しながら子育てを支援する	子育て支援をする中で、必要に応じて職員間で共有したり関係機関と繋がったりしながら取り組むことができた。保護者アンケートからも職員に相談しやすいことが分かっている。しかし、コロナ禍の中で保護者とゆっくりと話すことが減り、新たな保護者とのつながり方や支援について考えなければならぬと感じている。	C	・コロナ禍でもできることを考え工夫がなされている。連携は大切であるので次年度も今できる連携を工夫して取り組んで欲しい。	B	保幼小連携の中で、それぞれの子どもの育ちの中で大切にしたいことを共有しながら実施する。保護者との繋がりに関しては、職員が意識して様々な方法で実践したことを職員間で伝え合いながら、保護者支援に活かす。

【評価基準】 A : 十分満足 B : おおむね満足 C : もう少し努力すべき D : 大いに努力が必要

中期経営目標		短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
経営理念		<p>【保育目標】 みつけたよ 自分らしさとおもしろさ しぜんともだち 佐古キッズ                  【経営目標】 『主体者としての心を育み、自己肯定感や人への信頼感を身につけていく保育の在り方をめざす』                  &lt;子ども像&gt; 健康でたくましい子ども。やさしく思いやりのある子ども。自分で考え話しが聞ける子ども。なかよく協力する子ども。                  &lt;保育所像&gt; 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の育成のための「子どもにふさわしい生活の場」として、環境を通して養護と教育を一体的に行う保育所                  保護者の子育てを支援する保育所                  &lt;保育士像&gt; 子どもを見る目を豊かにしよう 子どもの最善の利益に立とう 仲間と創造し協働しよう 保護者と共に育とう育てよう</p>					
充実した保育内容	遊びの充実のための子ども理解	① 一人一人の子ども理解に努め、子どもが感じる”楽しい”がより楽しくなるための環境整備や遊具、素材の活用する。	カリキュラム会や、日々の職員会を通じて各年齢に応じた園庭の使い方を共通理解し、工夫することができた。季節を感じられるような遊びや、子どもたちの興味・関心に応じた環境を整えることを意識して取り組めた。	B	園庭の環境や周辺の自然環境を活かしたり、室内環境も手作りの玩具がたくさんあり充実している。延長保育でも、子どもたちの遊びが充実するような環境が整えられている。	A	引き続き、各年齢に応じた環境構成について伝え合い、共有していく。それと共に、保育の中で使う素材やその季節に応じ物を準備するなど、職員全体の知識を深めながら環境構成に活かしていく。
		② 子どもの好ましい行動に注目する実践を行い、子どもが自分でやろうとするプロセスを適切に援助する。	ティーチャーズ・トレーニング2年目で、昨年度の学びを活かしながら取り組む事ができた。子どもを肯定的に受け止め、褒める、認めることを意識して日々実践に活かすことができた。一人一人の状態に応じたタイミングのよい声のかけ方や行動理解においては難しさも感じており、課題である。	B	0～5歳児の発達に応じたプロセスを考慮し、今後の職員の資質向上を目指して、継続した取り組みに期待をする。	B	自分でやろうとしている姿を見逃さず、プロセスを大切に、援助していく保育を積み重ねていく。ティーチャーズ・トレーニング講習での学びを活かし、子どもの行動理解や対応について実践に努める。
		③ 一人一人の発達に適した援助を行い、自分の思いを伝え相手の思いに気付く態度が養われるよう取り組めたか。	0～5歳児までの子どもの年齢に応じ、ありのままの姿を受け入れることを意識して、子どもの気持ちに寄り添った関わりに努めた。日々の実践において、一人一人の友達関係を理解することが難しいことがあった。自分なりに思いを伝えようとする姿や、気持ちが伝わるうれしさが体験できるような場面を大切に実践ができた。	B	それぞれの、年齢に応じた、保育者の関わりにより、子どもたちの心の育ちが感じられた。また、子どもたち同士が関わり、共に育ち合う姿も見られていた。	B	乳幼児期に人と関わる力の基礎が育っていく事を意識しながら、日々の保育の中で一人一人の思いを受け止め、子どもにとっての通じ合う喜びが積み重なるよう援助していく。
適正な保育運営	共通課題に向かう職員の協力体制作り	① クラスに関わる職員と保育を伝え合い、保育が繋がるための実践を行う。	早朝、延長保育の職員間で、子どもの姿を共通理解しながら一人一人に応じた関わりができた。同じ方向性をもち、些細な事でも報告・連絡・相談をすることを意識して取り組めた職員が92%。	A	職員の連携において、報告、連絡、相談を意識して取り組む事ができ、成果に繋がっていると感じた。	A	引き続き、職員同士の伝え合いが確実となるように意識して取り組んでいく。共有できたことが保育や保護者対応に活かせるようにしていく。
		② 職務環境の見直しを図り、生き生きと働ける職場環境づくりに努める。	勤務時間のなかで、仕事をすることを目標にして残業時間の削減に取り組んだ。クラスに係る事務では、優先順位を考え見直しをもって取り組む事ができた。学年によっては、書類作成や、行事の内容の検討などで時間がかかることがあった。	B	職員の事務仕事の軽減化の工夫が必要である。優先順位を考え、書類作成等を計画的に進める事ができるように今後とも取り組みを望む。	B	事務仕事の効率化を考え、職員一人一人が計画的に実践できるように、今後とも引き続き取り組んでいく。
信頼される保育所	保護者や地域に親しまれる保育所作り	① 保護者や地域に保育所での子どもの姿や成長を伝え、保育説明を適切に行う。	コロナ禍で、行事等が例年どおりに実施することができなかった。参観日の内容を検討したり、毎日の連絡帳やクラス便りドキュメントを月に1回作成し、子どもたちの様子を保護者に分かりやすく伝えることも意識して取り組んで、保護者アンケートの結果85%に繋がった。	A	学年便りの他に、ドキュメントを作成して掲示するなど、保護者へ子どもの様子や保育内容を分かりやすく伝える工夫ができています。	B	保護者の安心に繋がるように、学年便りやドキュメントの作成等を継続して行い、子どもの姿や保育内容について分かりやすく伝えていく。
		② 保護者との信頼関係を大事にし、子育てに関する相談や援助に務める。	コロナ禍で、いつも以上に保護者とのコミュニケーションを図ることが難しかった。登降所時に、タイミングを見て話す機会を設けたり、個人懇談日を設けたりして一人一人の保護者との信頼関係を築くことに努めたことで、保護者アンケートの結果81%に繋がった。	B	保護者とのコミュニケーションを図ろうと、日々取り組む事ができている。今後とも、保護者の思いに寄り添った取り組みに期待する。	A	日々、保護者の子育ての不安、悩みなどに必要に応じて相談できる場を作っていく。今後とも保護者の安心に繋がるように努力する。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念		〈保育目標〉すくすく おれんじ げんきなこ 〈経営目標〉一人一人の子どもを大切に、保護者に信頼され、地域に愛される保育所をめざす 〈子ども像〉・元気に遊べる子ども ・自分の思いをすなおに出せる子ども ・優しく心豊かな子ども ・意欲のある子ども 〈保育所像〉・子どもの笑顔が輝く保育所・子どもの育ちを支える保育所 ・保護者や地域から信頼される保育所 ・幼稚園と連携して子どもの育ちを支える保育所 〈保育士像〉・子どもとの信頼関係を大切に作る保育士 ・意欲を育む環境を考える保育士 ・チームワークを大切に作る保育士 ・保護者より良い協力関係を築く保育士 ・専門性の向上に努める保育士				
中期経営目標	短期経営目標（評価項目）	自己評価		保育所関係者評価		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
職員の資質向上や運営	① 全職員が良好な人間関係のもと、報告・連絡・相談に努め、協力して職務を遂行する。	クラス間では日々の保育や子どもの姿などを話し合う時間を持つことができた。また、カリキュラム会や週案作成時に学年間で連携をとれるように話し合い、計画をもとに実践することができた。	A	まだまだ十分にはできていないという話もあったが、取組はできている。職員の勤務体制や時間差等もあり大変だとは思いますが、工夫して今後も取り組んでほしい。	A	各主任が中心となりクラス間、学年間で話し合いや連携を意識して取り組んでいく。また一人一人が自分のこととして考えていけるように短時間の職員等の学習会、研修等の取り組みも定期的に行う。
	② 保育所の安全計画を見直し、安全対策を行う。	子どもの安全確保、避難誘導という視点ではほぼ達成できた。担任以外の声かけ・誘導でも子どもたちは素早く避難ができ、取り組みの成果が見られた。しかし、日頃から防災意識を持って保育を考えていくことや想定外のことが起きたときに臨機応変な行動をとることは難しかった。	B	安全対策への課題も明確になっており、これからも継続してほしい。細かいことへの取り組みや見直しは今後期待している。	B	備蓄品の確認等も研修や話し合いをもとに見直し、改善をしていく。不審者対応、地震、火災以外の安全管理等についても取り組んでいく。
保育・教育活動の充実	① 子どもが遊んでみたくなるような園庭環境づくり。	職員間の話し合いは十分に行えるようになり、半数以上の子どもが担任と一緒に設定された環境で遊ぶことができた。しかし、その環境を子どもに提示するまでに時間がかかり、子どもの興味のタイミングがずれてしまったり、子どもの実態を十分にとらえられていなかった。	B	保護者アンケートからも分かるように、保護者の保育内容に対する満足度も高い。手作りの環境も工夫されていると思う。また、ブランターでの野菜作りで食育への取り組みもなされている。	B	子どもが興味・関心を持った瞬間を見逃さずに、子どもの発達や実態を捉え、先を見通した環境づくりを考えていく。時間の使い方など効率性も考えていく。
	② 所持品の片づけが身につくような環境・指導・援助の工夫。	年齢や育ちに応じた援助や環境の見直しできた。丁寧なかかわりをしてきたこともあり、おおむね70%以上の子どもが自分の所持品の始末はできるようになってきた。	B	保育室に入ってから動線も含め、所持品の片づけ等が身につけやすい、整理整頓があたりまえにできるような環境作りがされているので継続してほしい。	B	丁寧な関わりで繰り返し伝えられるという点は自園の良さでもあるので、低年齢のうちから習慣づけていけるような関わりや環境の工夫等を継続して行っていく。また、保護者への啓発と共に家庭と連携をとり、身辺自立を目指していく。
	③ 保育の振り返りと記録。	70%の職員が週日案をもとに日々振り返り、改善をしながら保育を実践できた。しかし経験年数等により子どもの発達や年齢に応じた実践や適切なねらいの設定、達成等に至るのは難しかった。	B	保育の記録、週日案等計画をもとにした保育ができていと思う。また、子ども一人一人に対しての細やかな配慮・気配りもされている。	B	今後も計画的な保育の実践をすることができるようにPDCAサイクルに取り組んでいく。
地域に開かれた園づくり	① 子どもの育ちが伝わる発信の工夫。	連絡帳では日々の姿を伝えたり、言葉だけでは伝わりにくい時には写真を使ったりなど工夫した。また、コロナ禍で行事も少なかったため、日常の様子をドキュメントで発信する職員もいたが、回数は少なかった。活動内容や子どもの姿の発信はできたが、なぜこの活動を行っているのか、この活動によって何が育っているのかなどを伝えるのは難しかった。	C	連絡帳での情報発信ができていると思う。保護者アンケートからも保護者との連携もよくとれている。	B	連絡帳やお便りでの発信は継続していきながら、ドキュメントの内容や掲示場所についても保護者が見やすい場所、内容の工夫をしていく。それと共に、子ども理解についても研修等で学びながら園全体で取り組んでいく。
	② 在園児の保護者に対して子育てを支援する。	コロナ禍ということもあり、登降所時の声かけ中心になり、十分な保護者支援につながらなかった。保護者が話しかけやすい雰囲気作りや子どもの姿を丁寧に、具体的に伝えようと努めてきた。しかし、保護者の方から悩みや相談をしてくれるという実感、手ごたえは50%程度だった。	C	保育所としての手ごたえ、感触は50%かもしれないが、保護者は日々の忙しさから保育所への感謝を伝える時間がないだけだと感じる。保護者から相談するのは難しいと思われるので、登降所時の声かけを中心に信頼関係を築いていってほしい。	B	登降所時の声かけは継続して行っていく。また、行事の持ち方や内容も工夫していき、保護者との連携や保護者同士の連携が持てる機会を計画していく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念	<p>保育目標 【あつたか笑顔で、すくすくやすっ子】</p> <p>経営目標 【子ども一人一人を大切に、保護者に信頼され、地域に愛される保育所】</p> <p>&lt;子ども像&gt; ○友達と元気に遊べる子ども ○自分の思いを持ち、素直に出せる子ども ○やさしく思いやりのある子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども</p> <p>&lt;保育所像&gt; ○一人一人の子どもが大切にされ、楽しく安心して生活できる保育所 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ保育所 ○保護者や地域から信頼される保育所 ○地域の子育てを支援する保育所</p> <p>&lt;保育士像&gt; ○子どもに寄り添い、子どもの最善の利益を考える保育士 ○意欲を育む環境を考える保育士 ○保護者と協力し、子どものより良い育ちを考える保育士 ○仲間と創造し協働する保育士 ○豊かな人間性と専門性の向上に努める保育士</p>
------	--

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価員		改善策等
		達成状況	評価	考察	評価	
適正な保育所運営	① 職務分担を明確にし、職員が報告・連絡・相談に努め、協力して保育に当たる。	子どもや保護者のことについて、日々担任同士で話し合い、気になることがあれば報告・連絡・相談に努め、協働して保育することはできた。計画や記録を定期的に提出することができなかった。	B	保育や子どものことについて、職員間で共有され、保護者へ丁寧に伝えることができていると思われる。	A	子どもや保護者、保育について報告・連絡・相談に継続して取り組む。計画や記録を定期的に提出して異年齢の関わりを意識しながら他の職員と協働して保育に当たる。
	② 保育所の安全計画や防災計画等を見直すなど安全対策を推進する。	子ども達は毎月の避難訓練がしっかり身につく、80%の子どもが地震音や非常ベルが聞こえると、保育者に注目したり傍に来るなどの行動ができた。保育室内外、園庭の環境は日々安全点検し、気になる場所はその都度見直したが、防災計画の見直しができている。	B	毎月避難訓練が実施され、子ども達が身を守る行動が身についていると思われる。また、保育環境についても点検や見直し等安全対策に配慮されていると思われる。	A	防災計画を見直し、有事の際に臨機応変に対応できるように、あらゆる事態を想定した避難訓練を実施し職員の危機管理意識を高めていく。
充実した保育内容	① 保育所保育指針を理解し、園の経営計画や保育目標等について共通認識のもとに保育を実践する。	保育指針を一日勤務の職員で読み合わせをして理解に努めた。担任同士で話し合い、子どもの育ちを確認することで翌週につながる週案を作成することができたが、子どもの姿の記録や保育の振り返りのみになったことがあった。	B	経営計画や保育目標等を意識した子どもの育ちの確認が担任同士で出来ていると思われる。全クラスでの取組を期待する。	B	保育指針の読み合わせを継続し全職員が理解できるように努める。経営計画や保育目標を日常の保育や行事等に反映し、より意識化していく。
	② 一人一人の乳幼児の発達や特性を理解し、心に寄り添った保育を実践する。	子どもの興味や関心に応じて玩具の種類や数などを見直すことで、70%の子どもがいろいろなものに自分から触れ遊ぼうとした。	B	遊びの環境が整えられ、見直しもされていると思われる。30%の子どもへの更なる取組を期待する。	B	子どもの興味や関心が誘発され好奇心をもって自ら関わりたくなるような玩具や遊びの環境を整えて保育を進める。
	③ 生活と遊びを通して子どもが自ら意欲をもって食に関わる体験を展開する。	3歳児は栽培物の成長を楽しみにしながら水やりの世話をした。収穫量が少なく、収穫した夏野菜やサツマイモは3歳児のみ食べることができた。0～2歳児は、栽培物に気づき、見たり触ったりする姿が見られ興味づけになった。	B	子ども達が収穫を楽しみにしたり食べることを楽しみにしたりし、食べる喜びを味わえていると思われる。	A	職員一人一人が栽培の知識や食育への関心をさらに高め、低年齢児に応じた体験活動を充実させる。
信頼される保育所	① 保護者や地域に対して積極的に情報発信を行い、保育の意図や子どもの育ちを共有する。	登降所時や連絡帳で子どもの様子を具体的に伝えたり、家庭での様子を聞いたりすることで、子育ての悩みをよく話してくれる家庭が75%あり、悩みに対する情報提供もできたが、クラス便りの発行回数が少なかった。	B	保護者とコミュニケーションを積極的に行うことにより、子どもの育ちを園と家庭が共有できていると思われる。25%の家庭への更なる取組を期待する。	B	クラス便り等便りの発行回数を増やし、保育の意図や子どもの育ち、保護者が必要としている情報をより具体的に発信する。
	② 保護者の実情や要望を把握し、参観日や行事の内容の充実を図り、子育て支援・保護者支援を行う。	子育てに関する情報提供や保護者の表情や体調等にも気を配る等良好な関係作りに努めたことで80%の子どもは情緒の安定が図られ元気に園生活を送ることができた。	B	保護者の実情を把握し、良好な関係作りに努めたと思われる。20%の家庭への更なる取組を期待する。	B	保護者支援に必要な情報を園内で共有し、保護者が必要としている情報の提供を継続して行い参観日や行事の内容を充実を図る。

経営理念		【保育目標】 自分大好き・友だち大好き・あかおっ子 《子ども像》 ○話を聴く、話す力が身についた子ども ○好きなあそびを見つけて集中してあそぶ子ども ○ルールを理解し守る力が身についた子ども ○よりよい人間関係を作る力をもつ子ども ○五感を十分に使い、豊かな感性を身につけた子ども 《保育所像》 ○一人一人の子どもを大切に育てる保育所 ○地域を理解し保護者とともに子育てをする保育所 ○地域に愛される保育所 ○保・小・中・高の連携を大切に育てる保育所 ○子どもの生活日課が確立される保育所 《保育士像》 ○子どもとの信頼関係を大切に育てる保育士 ○保護者とのよりよい関係を築く保育士 ○専門性の向上に努める保育士 ○チームワークを大切に育てる保育士							
中期経営目標		短期経営目標 (評価項目)		自己評価		保育所関係者評価		改善策等	
				達成状況	評価	考察	評価		
適正な保育所運営	職員が互いの良さを認め合い、協働して保育を遂行する職場環境を作る。	① 職員相互のコミュニケーションを図り、円滑な人間関係を築く	・月2回以上は、学年間では積極的に保育に関する話を話し合うことができた。しかし他学年になると、話し合う時間を計画的に確保していないと、互いの仕事量を気遣い声をかけることに遠慮がちであった。 ・異年齢の関わりを意識し他の職員と協同して保育を実践するところまでは達成にいたらなかったが、どの職員も自分の思いや考えを互いに言い合える関係性作りは意識できた。		B	子どもが主体であることを第一に考え、その為に職員間の情報共有が常に図られることが必要である。皆で情報を共有し合う時間を工夫していくことが大事である。	B	子どもが主体であることを意識しながら、互いが相手を尊重し合う気持ちをもって保育を語り合える職場環境作りに取り組む。	
			② 防災対策と安全教育の向上にしっかり努める。	・火災、地震の避難訓練は月2回の実施から、0.1歳児も音や放送に反応し、泣かずに保育者と一緒に避難に必要な行動をとろうとする姿が増えてきた。 ・2～5歳児はクラスの70%以上は状況に応じて危険から身を守り、安全に行動できるようになってきている。 ・保護者の評価として「子ども達が安全に生活できるように、安全、安心、防災、防犯に対する取り組みを十分に行えていますか」の設問には、保護者から96%の評価をもらうことができた。		B	月2回の訓練の実施、また子ども自身も回数を重ねることで、素早い避難行動がとれている。保護者からも評価をもらっている。	A	今後も危機意識を高く持ち、早朝や午睡時、延長保育等の時間帯も想定し、地震火災訓練を行っていく。訓練を通して、担任以外の職員の声掛けでも、その時に必要な行動をとり自分の身を守る力がつくようにしていく。
充実した保育課程	一人ひとりの心が満たされ、意欲的に遊びや生活をするための保育者の援助と環境構成を行う。	① 子どもの姿を見取り、確かな成長を促す指導の工夫を図る。	・複数担任クラスは、写真を用いての子ども理解を共有することができた。共有した個々の実感から育ちにに応じた月案や週月案(乳児組)の作成に取り組むこともできた。 ・幼児クラスは行事が重なる写真を撮ることや、週日案につなげていくことが難しい時期もあり、写真を用いた計画案の継続はできなかった。 ・写真を用いるか否かに関わらず、常に遊びに向かう姿から育ちを読み取ろうとする意識は一人一人の中に高まっている。		B	遊びや生活の中で育とうとしている姿を写真で記録することによって、子どもをよく見ようとする意識は高まっている。写真を撮る行為が子どもの生活や遊びの妨げになってはいけないことを意識しておくことが大事である。	B	写真を子ども理解の1つの手段として使うことで、職員同士が様々な視点で保育を語り合えるという利点を活かし、今後も子どもの内面や発達理解を深めていく。	
			② 進んで体を動かして遊ぶ環境を整え、健康な心と体を育てる。	・年間継続してきた朝の体操、3～5歳児の週1回のリズム運動(0～2歳児は10月よりリズム遊び)以外に、月一回程度はクラスで体を動かす遊びを提案実践することができた。この取り組みによりクラスの70%以上の子どもは、担任に誘われると一緒に体を動かすことを楽しむようになった。 ・学年間の連携としては遊びスペースと時間の確保の為の話し合いの取り組み回数が不十分であった。 ・保護者からの保育所への期待として、「健康に関する関心を高め、身体を動かす遊びを積極的に取り入れる」という項目が2番目に高かった。		B	子ども達は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。学年間で連携し、遊びの環境づくりへの取り組みの工夫が必要である。	B	保護者から保育所に対して期待が高い項目であることから、来年度も重点取り組みとして掲げ、年間計画を立てて継続した取り組みを行っていく。
			③ 食育活動を通して、食を楽しむための生活経験の充実を図る。	・収穫した野菜を、小さい年齢の子どもにも触れやすい場所に提示し、見る、触れる、数える、におう等の体験を保証したり、クイズ形式で野菜の名前を知るなど提示の仕方を工夫したり、自分で調理体験したものをお店屋さんごっこに発展させたりと、食育活動を通して生活経験も豊かにしていくことができた。 ・0～2歳児は、身近な場所で栽培物の成長を観察することが出来るよう園内にミニ畑を作る取り組みを行った。成果としては、遊び環境の中で畑の野菜をよく見るようになり、成長している様子を見て喜び、その気持ちを先生や周りの友達に伝え共感があったりすることにもつながった。		A	食育の取り組みでは地域の方の協力も得ながら、様々な体験を行うことができた。就学前に自分自身が体験をし、体験から感じたことは小学校以降の学習にもつながっていく。今後も畑の草引き等、保護者や地域の方を巻き込んでいく工夫をしていく。	A	今年度、食育活動で蓄えた基礎となる力をさらに豊かなものとしていくことができるよう、体験の保障を引き続き行っていく。保護者や地域の協力を得られるよう取り組みの工夫を行っていく。
信頼される保育所	地域の関係機関と連携及び協力して、子育て、家庭支援の充実に努める。	① 保護者と共に連携し、基本的な生活習慣の定着を目指す。	・家庭での様々な要因により気持ちが揺らぐことで、子供の心身に影響を及ぼすことがあり、1学期は、登所後より情緒が不安定な子どもが全体の1割強いる状態であった。9時からの体操に参加ができない子どもも同じ割合数いた。園としては、担任、家庭支援、管理職等がそれぞれの役割をもって関わり、子どもの情緒の安定、育ちに必要な体験が保証できる環境に努めてきた。 ・現在では情緒の安定が図られ元気に園生活を送っている子どもは70%以上と捉えている。保護者アンケートからは、9.7%の割合で「安心して通園している」と評価してもらっている。		B	保育所から家庭に生活習慣の確立を呼び掛けていく前に、まずは家庭とつながっていくことが大切である。	B	保護者との信頼関係をしっかりと築いたうえで、家庭状況に応じた関わりを行ったり、生活習慣の改善につながるよう講演やおたより等を工夫し、発信していく。	
			② 様々な園行事で保護者・地域とともに歩む教育活動の充実	・保護者アンケート「職員は誠実にお子さんと保護者に接している」の項目では9.4%の評価があった。 ・職員の評価では、保護者が子育ての中で感じる喜びや不安、悩みをよく話してくれた割合は50%以上であった。このことから、保護者との良好な関係づくりの難しさと、もっと自分からの働きかけが必要であったという悩みと頃からの信頼関係づくりが課題であるとして受け止めている。 ・保護者が職員に対して「子育て等の話を相談したい相手」と思ってくれていたかどうか、となると十分でなかったと思われる。		C	保育者に自分から発信できる保護者もいれば、そうでない保護者もいる。保護者が自分の思いを出して、保育者に心を開くことができるように、常に保護者の立場に立って考え、関係性を築いていくことが大切である。それが、必ず子どもの育ちにもつながっていく。	B	保護者との関係づくりにおいては、自分たちの価値観を押し付けてしまうことが無いよう意識して関わっていく。まずは自分たちが保護者にとって安心して自分を出せる存在となるよう努力し、保育所が保護者や子どもにとって自分らしくいられる場所となるように努めていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要

経営理念 保育目標 《 あふれる笑顔 ともち大好き みどりっ子 》 経営目標 《 豊かな経験や体験を通して、生きる力の基礎を培う保育所 》 ★めざす子ども像 *あいさつができる子ども *明るく元気な子ども *思いやりのある子ども *最後までやりぬく子ども *仲間と協力しあう子ども ★めざす保育所像 *一人一人の子どもを大切にしている保育所 *基本的な生活習慣を身につけ、しなやかにたくましい子どもが育つ保育所 *夢を育み、子どもの笑顔が輝く保育所 *保護者や地域から信頼される保育所 *保小中高の連携を大切にする保育所 *地域を理解し、保護者とともに子育てをする保育所 *子どもとの信頼関係を大切にしている保育所 *保護者より良い協力関係を築く保育士 *意欲を育む環境を考える保育士 ★めざす保育士像 *子どもとの信頼関係を大切にしている保育士 *豊かな人権感覚を身につけた保育士 *専門性の向上に努める保育士							
		中期経営目標					
保育・教育活動の充実	保育指針に沿って乳幼児期の発達に即した保育を展開し、生きる力の基礎を培う。	① 保育所経営計画を共通認識し、保育目標達成にむけて、保育の振り返りを行う。	毎月のカリキュラム会と週日案の会が計画通りにできた。PDCAサイクルを回す中で、子どもの実態に沿ったねらいの設定と記録の取り方に課題が残る。	B	コロナ禍の厳しい状況下でもカリキュラム会や週日案の会など話し合いを定期的にもっていた。今後も時間をかけ共有していくとよい。	B	育ちに沿ったねらいを設定していくために、子どもたちの「人・もの・こと」へかわる姿を記録し、PDCAサイクルを行う。
	一人一人の発達を理解し、豊かな経験が積み重ねられるように環境を整える。	担任しているクラスだけでなく、異年齢で連携しながら環境を整えるための話し合いが十分でなかった。また、一人一人の発達を捉え満足いく環境構成には課題が残る。	C	保護者アンケート結果で、保育者の質向上を求める方が多くいる。保育所生活だけでなく、家庭での子どもの姿を捉え保育につなげることも大切である。	B	日々の振り返りや週日案の会を通して異年齢間の保育に関心をよせ、子どもの興味関心に応じた環境構成の話し合いを定期的に行っていく。	
	一人一人の子ども理解に努め、気持ちに寄り添った保育を行う。	職員間でコミュニケーションを取り合いながら保育にあたったが、内面を推し量る話は少なかった。80%の子どもが安心して自分の思いを伝えるようになったが、全員の子どもの思いが伝えられるようになっていく必要がある。	B	コロナ禍でもプラスとマイナス面があり、マイナス面の中でも子どもと向き合う時間が持てたのではないだろうか。少人数のメリットを生かして行ってほしい。	B	日常的に、担任同士や職員間または屋敷等でエピソードや心に残った姿などを出し合いながら子ども理解に努め、気持ちを推し量っていく。	
職員の育成・資質向上や運営	職務分担が適正に機能し、子どもたちのために職員が互いに協働する保育所を構築する。	① 職員一人一人が研修を通じて自己研鑽し、喜びや意欲をもって保育にあたる。	年間研修計画に沿って学びを積み重ねた。その中で親育ち支援研修を3回実施した。組織的に役割分担を確認したことで保護者支援の手ごたえを感じることができた。	A	年間計画に沿って園の課題に応じた研修ができていた。また、地域の保護者の実情を踏まえた親育ち支援研修に取り組みしており、保護者の安心感につなげることができていた。	A	職員集団にとって必要な研修を見極め、研修を積み重ねていく。また、学びを保育に生かすために研修後の振り返りを行う機会を作っていく。
	防災対策・安全教育・衛生管理を関係機関と連携しながら実施する。	② 防災対策・安全教育・衛生管理を関係機関と連携しながら実施する。	防災対策では、年間計画に沿って様々な想定を設定し実施した。次の訓練に反省を生かした保育者が保育者が60%以上。マニュアル通りの訓練はできているが、さらに様々な想定を考え訓練していく必要がある。	B	訓練の中で正解を見つけることは難しいが、散歩中や午睡中など様々な想定を考えてほしい。	B	様々な想定を出し合い、訓練を継続して行っていく。また、保小合同訓練が充実できるように地域などと連携を図っていく。
地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	① 保護者や地域に対して積極的に情報発信を行い、開かれた園づくりに努める。	保護者に対して毎日の連絡ノートへの記入や、その日にあった行事などのドキュメントを作成し具体的に知らせた。園での子どもの様子を知っている答えた保護者が100%だった。	B	コロナ禍で地域との交流が難しい現状があったが、連絡ノートでコミュニケーションを取る努力やドキュメント作成などでできていた。	B	子どもの経験していることや育ちを意識したお便り、また多くの写真を使ったドキュメントを作成する。家庭で話題のきっかけとなるようにドキュメントは引き続き毎日発信を目指していく。
	保護者の願いや実情を理解し、子育ての楽しさを感じてもらえるように努める。	② 保護者の願いや実情を理解し、子育ての楽しさを感じてもらえるように努める。	保護者の姿を受容的に受け止め、気持ちに寄り添うことを心がけ支援することができた。保育者に相談できると答えた保護者が100%だったが、職員は半数ほどと押さえている。	B	保護者の話を傾聴することは大切である。保育者が相談したいと思った時に相談できる体制に配慮してほしい。また、外国籍の保護者理解に努めながら、文化や風習など違う中で、日本語だけの生活スタイルだけでなくその子たちの母語で話しかけるなど、どこかで気持ちが通じ合える関係性を築いてほしい。	B	保護者の様子を敏感に感じ取り、機会を逃さず支援に努めると共に、相談できる場や時間を設けていく。